

経営比較分析表（平成30年度決算）

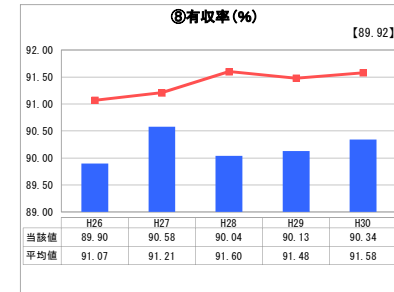
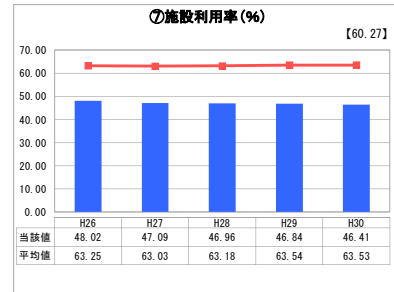
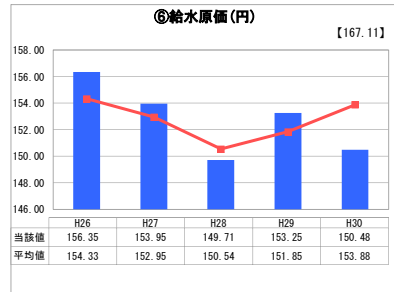
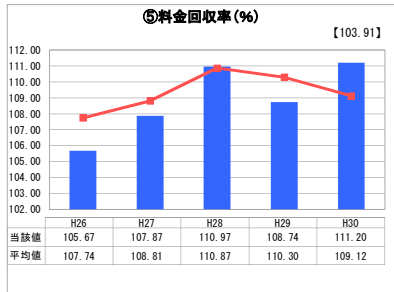
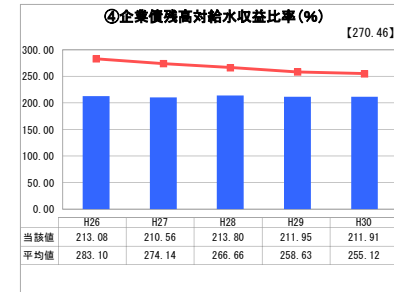
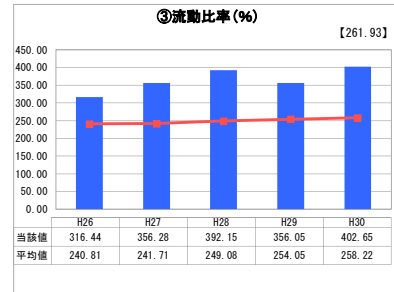
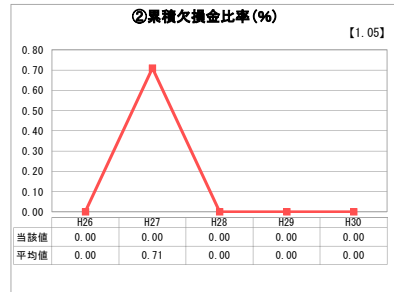
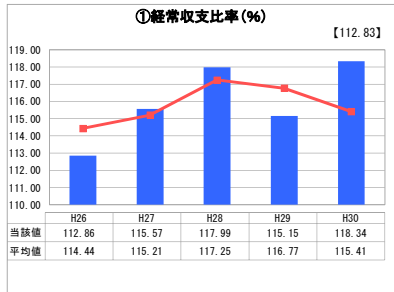
神奈川県 横須賀市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	77.78	97.96	2,581	

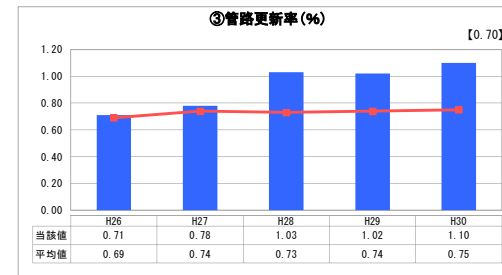
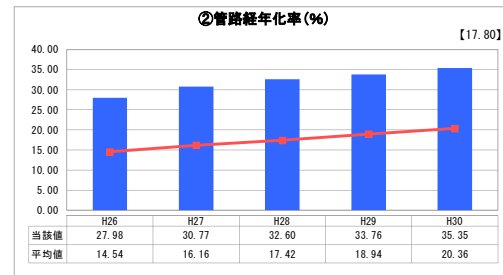
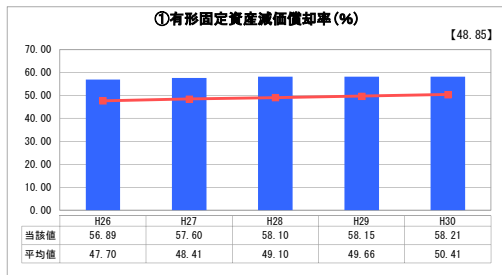
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
405,244	100.82	4,019.48
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
394,050	101.05	3,899.55

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は昨年より高く、100%以上で類似団体平均値を上回っており、②累積欠損比率は引き続き0%となっています。
 ③流動比率は100%以上で類似団体平均値を上回っています。
 ④企業債残高対給水収益比率は昨年より少し低くなりましたが、この5年間はほぼ横ばいです。全体として、昨年と大幅な変化はなく、健全な経営状態を保っていると考えています。
 ⑤料金回収率は100%以上を保っています。⑥給水原価は昨年より低くなっており、類似団体平均値を下回っています。
 ⑦施設利用率は類似団体平均値を下回っており、施設能力と給水量に差があります。水道施設の統廃合やダウンサイジングを進めていく必要があります。
 ⑧有収率は、類似団体平均値を下回っています。管路経年化率と関連しているものと考えており、配水管の更新を進めることで改善を図っていきます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価却率及び②管路経年化率は類似団体平均値より高い水準にあります。これは、本市の給水開始時期が明治41年（1908年）と古く、施設の老朽化が進んでおり、また、高度経済成長期に整備した管路が更新時期を迎えているためです。
 ③管路更新率は昨年と変わらず、類似団体平均値を上回っています。今後も管路更新を重点的かつ計画的に実施していきますが、更新には多額の費用が掛かることから、平準化を図りながら進めていきます。

全体総括

人口減少や節水型社会の定着など本市水道事業を取り巻く環境は、厳しい状況にあります。一方で、現状の施設利用率は低く、また、施設の老朽化も進んでいます。
 水道施設の更新を着実に進めるため、平成23年度から令和3年度までの上下水道事業の方向性を示したマスタープランを策定しています。このプランの経営目標である「いつでも安心して使える止まらない水道・下水道」の達成に向け、具体的な実行計画を策定し、取り組んでいます。
 なお、平成27年2月に半原水源地を廃止しましたが、今後も施設の統廃合・ダウンサイジングを検討していきます。